

# 広島県東部アサリ協議会 <浦島地区> (広島県尾道市)

## ● 活動項目

干潟等の保全 他 (網袋を活用した稚貝確保、被覆網を用いた食害対策、モニタリング他)

## ● 組織の構成

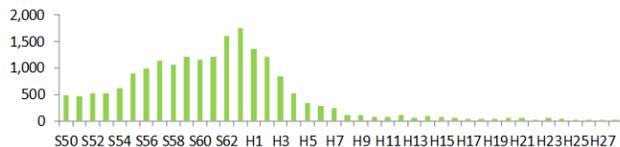
漁業者、浦島漁協 (56名) (サポーター: 県<普及員等>・市、国<瀬戸内水研>、企業 他)

## ● 地域の現状・課題

- ・尾道市南東部の浦島地区では、農業や漁業が地域産業の主体となっており、漁業はアサリや刺網、小型定置網などが営まれてる。
- ・海岸線には国や県が造成した人工干潟が複数あるのが特徴で、そこではアサリを中心とした漁業が行われている。



- ・現在、干潟における砂の移動、クロダイ・エイ類等による二枚貝の食害、松永湾内の一大アサリ生産地「山波の洲」における資源量減少による幼生供給量の低下によって、アサリ資源が大きく減少しており、干潟の生産力や生物多様性機能の劣化が懸念されている。



尾道市におけるアサリ漁獲量(t)の推移

## ● 活動の内容

- ・干潟に浮遊する幼生や、波浪で巻き上げられ飛来する初期稚貝を確保するために、10月末～2月の期間中に「網袋」を設置した。

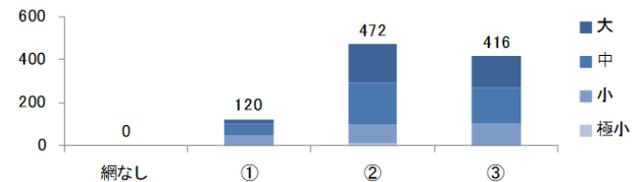


網袋を活用した稚貝の確保・保護のポイント概要

- ・クロダイなどの食害、砂の移動による稚貝の消失を防ぐために、干潟上に「被覆網」を設置した。
- ・かつてのアサリ一大生産地「山波の洲」を有する松永湾側は、その資源再生が未だ課題となっていることから、H30年度から新たに活動場所を1地区設け、アサリ資源再生の取り組みを試験規模でスタートした。
- ・効果の高い被覆網による試験を実施し、アサリの生息状況だけでなく、網の種類、張る方向などの検討も併せて行うことにした。試験は、視認サイズの稚貝が確認できる5月に網を設置し、開始した。

## ● 活動の効果

- ・当該地区の観音地先では、H22年以降、アサリの漁獲がほとんどされていなかった。しかし、H25年度から資源回復に向けた取り組みを開始してから、被覆網内で順調に回復し、H29年度は3.5トン、今年度は1.5トンの漁獲がみられた。本取り組みの成果によって約10年ぶりに水揚げが可能になったことから、地区に活気が戻りつつあり、大きな効果が得られた。
- ・新たに追加した松永地区における被覆網試験の結果は、設置半年後の秋季のアサリ個体密度において、網なし区では本種が確認できなかったのに対し、網かけ区では100個体以上確認された。特に、防風ネットやモノフィラメントで効果が高く、目合4mm以上の被覆網が有効と考えられた。



被覆網試験の結果 (設置半年後の秋季調査結果)